

第1日目：12月5日（土）

ミーティングルームA（ZOOM ライブ配信）

09:30～09:40 開会式 大会長：松田純（静岡大学）

09:40～10:40 大会長講演（1-A-1）

価値観と文化の多様性にむきあう生命倫理学

松田純（静岡大学）

10:50～12:20 公募シンポジウムI（1-A-2）

日本、台湾、韓国における終末期医療の法政策とその文化的・社会的背景の検討
—「良い死」の概念とその実践を中心に—

オーガナイザー： 鍾宜錚（大谷大学真宗総合研究所東京分室）

台湾における終末期医療の法制度と「善終」概念の実践

鍾宜錚（大谷大学真宗総合研究所東京分室）

日本の終末期医療に関する法政策の現状と文化的・社会的背景

田中美穂（日本医師会総合政策研究機構）

韓国における「延命医療決定法」と「良い死」をめぐる議論

洪賢秀（明治学院大学社会学部附属研究所・東京大学医科学研究所）

13:40～15:10 大会企画シンポジウムI（1-A-3）

ヨーロッパ生命倫理はどこへ向かうのか — フランス生命倫理法改正から考える —

オーガナイザー： 小出泰士（芝浦工業大学）

フランス生命倫理の基本理念について

小出泰士（芝浦工業大学）

フランス生命倫理法改正と生命倫理三部会の試み

香川知晶（山梨大学）

生命倫理法改正にみる規範形成過程における市民の役割

小林真紀（愛知大学）

15:20～16:50 公募シンポジウムII（1-A-4）

ゲノム合成時代における先端生命科学技術とバイオセキュリティ

オーガナイザー： 四ノ宮成祥（防衛医科大学校分子生体制御学講座）

指定討論者： 児玉聡（京都大学大学院文学研究科）

合成生物学がもたらすデュアルユース問題について

四ノ宮成祥（防衛医科大学校分子生体制御学）

合成生物学並びに Genome Project-write の現状について

相澤康則（東京工業大学生命理工学院）

先端生命科学がもつバイオセキュリティ上の課題

河原直人（九州大学病院 ARO 次世代医療センター）

先端生命科学の進歩に伴う倫理的・法的・社会的課題をどう捉えるか

三成寿作（京都大学 iPS 細胞研究所上廣倫理研究部門）

第1日目：12月5日（土）

ミーティングルームB（ZOOM ライブ配信）

10:50～12:20 公募シンポジウムⅢ（1-B-1）

医療系倫理委員会の現在（いま）

オーガナイザー： 旗手俊彦（札幌医科大学）

人を対象とする医薬学系研究に対する倫理審査委員会のあり方

野崎亜紀子（京都薬科大学）

臨床倫理委員会の構成と機能

丸山英二（神戸大学）

倫理審査の質の確保と委員会事務局の役割

横野恵（早稲田大学）

13:40～15:10 公募シンポジウムⅣ（1-B-2）

With コロナ時代のリビングウィル、ACP（人生会議）を考える： ごく当たり前の意思表示を目指して

オーガナイザー： 板井孝孝郎（宮崎大学大学院医学獣医学総合研究科生命・医療倫理学分野）

エンドオブライフケアの中核概念としてのアドバンス・ケア・プランニング（ACP）

— 人生会議の今後を考える上で鍵となる人生の物語のピース —

西川満則（国立長寿医療研究センター緩和ケア診療部/エンドオブライフケアチーム）

アドバンス・ケア・プランニング（ACP）時代のリビング・ウィル

満岡聡（日本尊厳死協会理事）

厚労省ガイドラインと ACP（人生会議）の理念を考える

浜渦辰二（上智大学グリーンケア研究所）

15:20～16:50 公募シンポジウムⅤ（1-B-3）

生殖補助医療を利用した多様な家族形成における倫理的課題の検討

— 医療者、レシピエント、ドナーの声を通じて —

オーガナイザー： 入澤仁美（兵庫医科大学，順天堂大学）

「出自を知る権利」をめぐる ELSI（倫理的・法的・社会的課題）

— DC を利用した当事者、出生児、医療者が望む情報の観点からの検討 —

入澤仁美（兵庫医科大学，順天堂大学）

性の多様な家族における共助の老成学的考察

稲垣恵一（日本赤十字豊田看護大学）

ファンタスマゴリーとしての生殖補助医療 — 「倒錯」概念から血縁主義に基づく搾取について考える

水野礼（名古屋大学，名古屋市立大学）

ドナーとレシピエントを支援する上での気づき — NPO 法人 OD-NET の活動を通じて —

岸本佐智子（NPO 法人・卵子提供登録支援団体「OD-NET」）

代替的 ART 利用をどう考えるか ～ 親も一対（ワン・ペア）である必要はない

村岡潔（岡山商科大学）

第1日目：12月5日（土）

ミーティングルームC（ZOOM ライブ配信）

10:50～12:20 公募ワークショップ I（1-C-1）

新型コロナウイルス感染症を巡り、新しい倫理的問題が生じているのか

オーガナイザー： 稲葉一人（中京大学法務総合教育研究機構）
報告者： 松村優子（京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻博士後
期過程）
恋水諄源（市立福知山市民病院形成外科）
武ユカリ（関西医科大学看護学部在宅看護学領域）
峯村優一（京都府立医科大学 医学生命倫理学）
中岡成人（一般社団法人哲学相談おんころ）

13:40～15:10 公募ワークショップ II（1-C-2）

中・高大連携におけるバイオエシックス教育 — 実践報告・今後の課題と展望 —

オーガナイザー： 丸山マサ美（九州大学大学院医学研究院）
報告者： 鈴木美香（京都大学 iPS 細胞研究所上廣倫理研究部門）
川勝和哉（兵庫県立姫路東高等学校）
丸山マサ美（九州大学大学院医学研究院）
コメンテーター： 木村利人（早稲田大学）

15:20～18:10 大会特別企画（1-C-3）

ラウンドテーブル・ディスカッションで学ぶ臨床倫理コンサルテーション ～ 立ち上げから運営まで ～

オーガナイザー： 竹下啓（東海大学）
本家淳子（浜松医科大学）
講師： 本家淳子（浜松医科大学）
竹下啓（東海大学）
武市尚子（千葉大学）
金城隆展（琉球大学）

第2日目：12月6日（日）

ミーティングルームA（ZOOM ライブ配信）

09:00～10:30 公募シンポジウムVI（2-A-1）

臨床倫理委員会のあり方を探る

オーガナイザー： 瀧本禎之（東京大学）

長尾式子（北里大学）

東海大学医学部附属病院倫理委員会の概要と臨床倫理委員会をめぐる今後の課題

竹下啓（東海大学）

東京慈恵会医科大学柏病院臨床倫理委員会・コンサルテーションチームの活動について

三浦靖彦（東京慈恵会医科大学）

当院での活動の紹介と臨床倫理支援のあり方について

金田浩由紀（関西医科大学）

琉球大学病院臨床倫理委員会の概要とその在り方に関する検討

金城隆展（琉球大学医学部附属病院）

10:40～12:10 大会企画シンポジウムII（2-A-2）

北欧のケアと生命倫理

オーガナイザー： 浜渦辰二（上智大学）

生命倫理と社会生活の倫理 — スウェーデンの包括的な「福祉」の思想を導きに

竹之内裕文（静岡大学）

スウェーデンにおける知的障害者福祉と生命倫理

是永かな子（高知大学）

オープンダイアログ・アプローチにおける治療とケアの思想

石原孝二（東京大学）

14:30～16:00 学会企画シンポジウム（2-A-3）

パンデミックの生命倫理：COVID-19をめぐって

オーガナイザー： 松原洋子（立命館大学）

COVID-19パンデミックと生命倫理の諸問題

児玉聡（京都大学）

COVID-19の生政治と生命倫理

美馬達哉（立命館大学）

16:10～17:40 市民公開企画（2-A-4）

再生医療の治療と研究はどう違うのか？ — 治療を受けたいときに考えること —

オーガナイザー： 一家綱邦（国立がん研究センター医事法研究室）

藤田みさお（京都大学 iPS 細胞研究所上層倫理研究部門）

第2日目：12月6日（日）

ミーティングルームB（ZOOM ライブ配信）

09:00～10:30 公募シンポジウムⅦ（2-B-1）

ワクチンへの期待が高まる中で HPV ワクチン接種被害を問う

オーガナイザー：佐々木香織（小樽商科大学）

HPV ワクチン接種被害について

打出喜義（金城大学）

予防医学の生命倫理 ～ HPV ワクチンを題材にして

村岡潔（岡山商科大学・西本願寺あそか診療所）

HPV ワクチン接種被害の社会的考察

井上芳保（苫小牧駒澤大学）

HPV ワクチンにおける科学ジャーナリズムの倫理的責任

佐々木香織（小樽商科大学）

10:40～12:10 公募シンポジウムⅧ（2-B-2）

家族と医療者の協働意思決定の対話に迫る ～ 何を共有し、いかに分かち合うか ～

オーガナイザー：笹月桃子（西南女学院大学保健福祉学部・九州大学病院小児科）

「対話」は成り立っているか？

加部一彦（埼玉医科大学総合医療センター新生児科）

小児医療における医師との対話：家族からみた協働意思決定のあり方

櫻井浩子（東京薬科大学薬学部）

一人ひとりの子どもに個別の価値を創成する対話

笹月桃子（西南女学院大学保健福祉学部・九州大学病院小児科）

14:30～16:00 公募シンポジウムⅨ（2-B-3）

医学研究者の倫理的意識決定と組織環境の評価尺度

オーガナイザー：瀬戸山晃一（京都府立医科大学医学研究科医学生命倫理学）

研究公正とかかわる内面的要素の測定 — 既存尺度の応用可能性の検討から —

景山千愛（京都府立医科大学医学研究科医学生命倫理学）

組織環境の評価尺度 — SORC の分析を通して —

峯村優一（京都府立医科大学医学研究科医学生命倫理学）

医療系研究者・医療従事者の倫理的意識決定能力に影響を与える環境要因の検討

吉井健悟（京都府立医科大学医学研究科生命基礎数理学）

16:10～17:40 公募シンポジウムⅩ（2-B-4）

診療記録における遺伝情報の管理は、遺伝子例外主義を乗り越えるべきか

オーガナイザー：竹下啓（東海大学医学部）

遺伝子例外主義の現在と日本における診療上の遺伝情報の取扱い

丸祐一（鳥取大学地域学部）・高島響子（国立国際医療研究センター）

診療記録における遺伝情報管理の実態調査

鈴木みづほ（東海大学医学部）

遺伝情報の共有とゲノム医療実地における課題

平沢晃（岡山大学大学院医歯薬学総合研究科）

第2日目：12月6日（日）

ミーティングルームC（ZOOM ライブ配信）

09:00～10:30 公募ワークショップⅢ（2-C-1）

当事者・市民協働参画と新型コロナウイルス（COVID-19）パンデミック

オーガナイザー： 北原秀治（東京女子医科大学解剖学教室）
吉田智美（筑波大学理工情報生命学術院システム情報工学研究群）
報告者： 杉原正子（独立行政法人国立病院機構東京医療センター精神科）
細田満和子（星槎大学）
宿野部武志（一般社団法人ペイシェントフッド）

10:40～12:10 公募ワークショップⅣ（2-C-2）

日本における患者・市民参画（PPI）を考える — 3つの実践の現場から —

オーガナイザー： 加藤和人（大阪大学大学院医学系研究科医の倫理と公共政策学分野）
古結敦士（大阪大学大学院医学系研究科医の倫理と公共政策学分野）
報告者： 磯野萌子（大阪大学大学院医学系研究科医の倫理と公共政策学分野）
古結敦士（大阪大学大学院医学系研究科医の倫理と公共政策学分野）
山本ベバリーアン（大阪大学大学院人間科学研究科）

14:30～16:00 公募ワークショップⅤ（2-C-3）

定式化しない倫理カンファレンスの可能性 — MCDの受容と新たな展開

オーガナイザー： 徳永純（狭山神経内科病院）
報告者： 原敬（さいたま赤十字病院）
太田奈津子（狭山神経内科病院）
門岡康弘（熊本大学）
田代志門（東北大学）
服部健司（群馬大学）
堀井泰明（天使大学）

16:10～17:40 公募ワークショップⅥ（2-C-4）

より良い最期を迎えるための人生会議の在り方について — コロナを挟んで、終末期における倫理的課題及び死生観は変化するのか —

オーガナイザー： 冲永隆子（帝京大学）
報告者： 足立大樹（ホームケアクリニック横浜港南）
川崎志保理（順天堂大学）
北原秀治（東京女子医科大学）
入澤仁美（兵庫医科大学、順天堂大学）

ミーティングルームD（ZOOM ライブ配信）

9:45～10:30 2020年度若手論文奨励賞受賞者講演

座長： 武藤香織（学会研究開発委員長）

※ 受賞者・受賞題目に関しては、後日、詳細を公表

一般演題（オンデマンド配信）

A. 生命倫理の基本概念

01. 尊厳概念理解への一試論

小田中奎太（東北大学大学院情報科学研究科）

02. 自己所有権から見た臨床研究におけるインフォームド・コンセントの倫理的意義

種田佳紀（埼玉医科大学医学部）

03. 自律概念の再構築

森禎徳（群馬大学）

B. 研究倫理、産学連携

04. ヒト胚ゲノム編集の課題検討を契機とした研究審査体制の見直しに関する議論の分析

相京辰樹（大阪大学大学院医学系研究科医の倫理と公共政策学）

加藤和人（大阪大学大学院医学系研究科医の倫理と公共政策学）

05. 医学分野のオープンサイエンスのためのインフォームド・コンセントについての試論

有澤和代（東京大学医科学研究所）

神里彩子（東京大学医科学研究所）

06. 幹細胞研究・再生医療領域における Predatory Journal の実態：書誌データベースを用いた定量的分析

井出和希（京都大学 iPS 細胞研究所上廣倫理研究部門）

八田太一（京都大学 iPS 細胞研究所上廣倫理研究部門）

藤田みさお（京都大学 iPS 細胞研究所上廣倫理研究部門）

07. 研究倫理審査と感染症流行の「緊急事態」：海外の主な検討を題材に

井上悠輔（東京大学）

小門穂（神戸薬科大学）

08. 認知症の人を対象とした看護・介護・リハビリテーション領域の研究における倫理的配慮に関する現状と課題

佐伯恭子（千葉県立保健医療大学）

諏訪さゆり（千葉大学大学院看護学研究科）

09. 「治療との誤解」再考

高井寛（国立がん研究センター）

10. 臨床医の医学研究活動を阻害する要因の解明

武井陽子（宮崎大学医学部附属病院臨床研究支援センター）

岩江荘介（宮崎大学医学部附属病院臨床研究支援センター）

門脇ゆう子（久留米大学大学院医学研究科博士課程 社会医学系バイオ統計学専攻）

11. **倫理的意思決定テストで誤解答の多かった医学研究者の属性とは？**

吉井健悟（京都府立医科大学 医学研究科 生命基礎数理学）
峯村優一（京都府立医科大学 医学研究科 医学生命倫理学）
景山千愛（京都府立医科大学 医学研究科 医学生命倫理学）
瀬戸山晃一（京都府立医科大学 医学研究科 医学生命倫理学）

12. **製造販売後調査における高齢者のインフォームド・コンセントについて**

脇之菌真理（国立長寿医療研究センター、藤田医科大学）
平島学（国立長寿医療研究センター）

C. 先端医療技術、医療化

13. **遺伝子・ゲノム解析技術をめぐる倫理 — 子と親・家族からみた「利益」と「害」をめぐる論点の整理 —**

李怡然（東京大学医科学研究所）
木矢幸孝（東京大学医科学研究所）

D. 医療経済、資源配分、公共政策

14. **Rare Disease 患者はどのように診断に辿り着くのか — HAE 当事者の経験に関する質的研究から**

磯野萌子（大阪大学大学院医学系研究科）
小門穂（神戸薬科大学）
加藤和人（大阪大学大学院医学系研究科）

15. **質問票法による患者団体と製薬企業の意識のギャップ調査 ～ 患者団体と製薬会社の協働に関する調査（第一報）**

吉田智美（筑波大学大学院理工情報生命学術院システム情報工学研究群（博士課程））
宿野部武志（一般社団法人ピーペック）
畑中和義（NPO 法人患者中心の医療を共に考え共に実践する協議会）

E. 臨床倫理、看護倫理

16. **臨床倫理コンサルテーションにおいて、確認すべき内容を初回返答とする提案**

金田浩由紀（関西医科大学総合医療センター）
武ユカリ（関西医科大学看護学部）

17. **「臨床倫理」への具体性のある説明の提案 — 個人の医療・ケアにおいて、異なる価値を比較考量すること —**

金田浩由紀（関西医科大学総合医療センター）
武ユカリ（関西医科大学看護学部）

18. **地域における倫理的支援の検討 ～りんりカフェの取り組みをとおして～**

恋水諄源（市立福知山市民病院）
松村優子（京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻博士後期過程）
武ユカリ（関西医科大学看護学部在宅看護学領域）
峯村優一（京都府立医科大学 医学生命倫理学）

F. 生殖医療、産育、家族

19. **沖縄における親子関係 — ひとり親の子どもを産む・育てるの語りから —**

笹谷絵里（花園大学）

G. ケア、介護、福祉

20. 地域共生を發展させる医療的ケア児者の参加と課題 — 小児から成人への「移行期」を中心とした検討に基づいて —
山本智子（国立音楽大学音楽学部）

H. 終末期医療

21. 治療の差し控え・中止における「自己への配慮」と関係的自律
秋葉峻介（山梨大学／立命館大学）
22. 本邦の医療現場における代理意思決定に関する大規模横断調査
田中雅之（東北大学医学系大学院医療倫理学分野）
圓増文（東北大学大学院医学系研究科公衆衛生学専攻公共健康医学講座医療倫理学分野）
大北全俊（東北大学大学院医学系研究科公衆衛生学専攻公共健康医学講座医療倫理学分野）
浅井篤（東北大学大学院医学系研究科公衆衛生学専攻公共健康医学講座医療倫理学分野）
尾藤誠司（東京医療センター臨床疫学研究室）
23. 人工透析の治療中止における患者の意思の確定方法
樋笠知恵（芝浦工業大学）

I. 宗教、思想、文化

24. 胎児付属物は特別なものか — 再生医療における医学的価値と社会的文化的価値
神里彩子（東京大学医科学研究所）
洪賢秀（東京大学医科学研究所）

L. 生命倫理教育

25. LGBT への理解を促進する医療人育成のための教育の検討
鶴若麻理（聖路加国際大学生命倫理学・看護倫理学領域）
26. 病院看護師の倫理研修に関する意識
中尾久子（九州大学医学部保健学科看護学専攻）
青本さとみ（九州大学医学部保健学科看護学専攻）
酒井久美子（九州大学医学部保健学科看護学専攻）
潮みゆき（福岡女学院看護大学看護学部）
金岡麻希（宮崎大学医学部看護学科）
木下由美子（宮崎大学医学部看護学科）
27. 道德教育は、Physician-Researcher の専門職化にどれほど寄与するか
柳橋晃（国立がん研究センター）
松井健志（国立がん研究センター）

M. その他

28. nhps における脳科学実験からの動物倫理への含意：日独中の三国間の指針の比較分析を手がかりに
戸田聡一郎（東京大学大学院情報学環）